

おぐに農地利用最適化推進運動

農委会名：小国町農業委員会

1 地域の概要

小国町は、熊本県の最北端で、阿蘇外輪山の外側にあり筑後川の上流に位置する。東・西・北部を大分県、南部を南小国町と隣接し、涌蓋山が1,499mで小国町の中で一番高く、逆に一番低いのは海拔320mの杖立。東西18km、南北11kmで総面積は136.72km²。その総面積の74%は山林が占める農山村地域である。

九州山脈の屋根に位置しているため気温の変化が激しく、夏は涼しく冬は厳しい高冷地帯（平均気温13℃）であり、雨も多く年間降雨量は2,300mmで多雨多湿である。

基幹産業である農林業は畜産、園芸、椎茸など水稻との複合経営が多い。近年は、農家戸数の減少により、耕作放棄地が増え、担い手の育成確保が重要な課題となっている。

2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 8人（うち認定2人、女性2人）
- (2) 推進委員数 12人（うち認定5人、女性0人）
- (3) 事務局体制 2人（すべて兼任）

3 掲げた目標

農地利用状況調査の精度向上、無断転用の防止、農地の遊休化の防止

4 目標達成に向けた取組み（運動）の内容

今回、農地利用状況調査の精度向上のために航空写真を利用し、遊休農地の位置を特定する精度を向上させた。また、カメラの貸し出しをおこない、現地の写真は調査員と測量ポールを撮影し、自宅や役場の事務所でも荒廃度の確認をおこなえるようにした。

荒廃度の判断については、統一した判断ができるよう事前説明会を実施し、荒廃度の判断の精度向上をおこなった。



【遊休農地の位置特定作業】



【利用状況調査】

5 取組みの成果（できるだけ数値を用いながら、具体的に）

（１）１号遊休農地（緑区分）	９３筆	１１．１ｈａ
（２）１号遊休農地（黄区分）	１１０筆	１３．７ｈａ
（３）２号遊休農地	１２１筆	１１．９ｈａ
（４）非農地判断	３筆	０．５ｈａ

6 課題と今後の方針等

農業委員・農地利用最適化推進委員の資質の向上と連携を益々図る必要がある。

なお、中山間地域の農地利用の最適化には、鳥獣被害、農業者の高齢化、後継者不足など諸問題を抱えながらも、地域の担い手への集積・集約と遊休農地化の防止を進め、地域によっては、法人化等も視野に入れながら、まずは現場活動を行う農地利用最適化推進委員による地道な活動を継続的に行い、その活動から農地の集積・集約や遊休農地化の防止に繋いで行くことが重要である。